

PSI への参加方法

IPSIに参加するには、申請書をIPSI事務局に提出し、運営委員会の承認を得る必要があります。

また、新規メンバーには、入会から6ヶ月以内に、社会生態学的ランドスケープ・シースケープ (SEPLS) での活動に関するケーススタディーを提出していただきます。

詳細はIPSIのウェブページ (<http://satoyama-initiative.org/ja/>) をご覧いただくか、IPSI事務局 (isi@unu.edu) にお問い合わせください。



SAToyAMA イニシアティブ 国際パートナーシップ (IPSI)



<http://satoyama-initiative.org/ja/>



UNITED NATIONS
UNIVERSITY

UNU-IAS

Institute for the Advanced Study
of Sustainability

SAToyAMAイニシアティブ国際パートナーシップ (IPSI)、
国連大学サステナビリティ高等研究所 (UNU-IAS)

住 所：〒150-8925 東京都渋谷区神宮前5-53-70

Eメール：isi@unu.edu

ウェブサイト：<http://satoyama-initiative.org/ja/>



SATOYAMAイニシアティブは、「人と自然の共生」という理念のもと、環境省と国連大学サステナビリティ高等研究所(UNU-IAS)が提唱したものです。このイニシアティブを推進するため、2010年10月、SATOYAMAイニシアティブ国際パートナーシップ(IPSI)*が生物多様性条約第10回締約国会議(CBD COP10)の期間中に設立されました。

IPSIはメンバー間の情報共有や協力を促進することで、人と自然の良好な関係が保たれた持続可能な社会の構築に貢献しています。

※IPSI: International Partnership for the Satoyama Initiative



SATOYAMAイニシアティブとは

SATOYAMAイニシアティブは、農林漁業などの営みを通じて自然資源が持続的に利用され、人々が豊かな自然の恵み



写真提供：豊岡市

を享受してきた、日本の里地里山のような地域(社会生態学的生産ランドスケープ・シースケープ(SEPLS)*)の保全と再生を通じ、自然共生社会の実現を目指す取り組みです。SEPLSは世界各地に存在し、生物多様性の保全や人々の暮らし、福利の向上に大きな役割を果たしています。

2010年1月にフランス・パリで開催された「SATOYAMAイニシアティブに関する国際有識者会合」にて、SATOYAMAイニシアティブの利点や概要、活動を推進するにあたっての留意点等を取りまとめた「SATOYAMAイニシアティブに関するパリ宣言」が採択されました。

その後、CBD COP10の決定に始まりCOP11、COP12の決定などでもSATOYAMAイニシアティブの有用性が確認され、

国際的な認知も高まりつつあります。

※SEPLS: socio-ecological production landscapes and seascapes



SATOYAMAイニシアティブ 国際パートナーシップ(IPSI)とは

SATOYAMAイニシアティブ国際パートナーシップ(IPSI)は、SATOYAMAイニシアティブの考え方に賛同し、社会生態学的生産ランドスケープ・シースケープ(SEPLS)の維持や再構築に取り組んでいる団体で構成されるものです。メンバーは、以下の図に示す3つの行動指針と6つの実践的視点の重要性を共有しつつ、多種多様な活動を展開しています。IPSIはそれらのメンバー間の情報共有や意見交換の場を提供しています。

現在、IPSIには国・地方政府機関や、NGO・市民団体、先住民団体・地域コミュニティ団体、学術・教育・研究機関、産業・民間センター団体、国連機関など様々な団体が加入しています。

長期目標：自然共生社会



メンバーの数は設立当初(2010年)の51団体から3倍以上に増えました。

IPSIでは、多様な団体の連携を促すことで、相乗効果を創出し、より効果的な取り組みが世界各地で実践されることが期待されます。

PSIの活動

SATOYAMAイニシアティブの目標を達成するため、IPSIでは、知見の集約・発信、研究開発、人材育成や普及啓発、現地での活動など様々な取り組みが実施されるとともに、これらに対する支援も行われています。

こうして得られた知見や情報は、メンバー団体や関心のある参加者が集うIPSI定例会合や地域ワークショップ等を通じて共有され、各メンバーの活動に活かされると同時に、メンバー間の連携が促進されることが期待されます。

また、メンバーのSEPLSでの活動に関するケーススタディーを収集し、ウェブサイト上で公開しています。メンバー間の連携活動も積極的に推進しており、「IPSI協力活動」として承認しています。

